

氏名	石森 大知 (いしもり だいち) 准教授
こんな研究をしています	文化人類学、オセアニア地域研究。これまで南太平洋のソロモン諸島で長期間のフィールドワークを行ってきました。主な研究テーマは宗教運動、キリスト教信仰、社会・文化変容、地域開発、民族・宗教紛争などに関することです。また、宗教と公共性の問題や、太平洋における非キリスト教（イスラーム、バハーイー教）への改宗の動きについても興味をもっています。
こんな成果を挙げています	<p>【著書】</p> <p>石森大知 2011『生ける神の創造力—ソロモン諸島クリスチャン・フェローシップ教会の民族誌』世界思想社。</p> <p>石森大知・丹羽典生(編) 2019『宗教と開発の人類学—グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』春風社。</p> <p>石森大知・丹羽典生(編) 2019『太平洋諸島の歴史を知るための60章—日本とのかかわり』明石書店。</p> <p>【雑誌論文】</p> <p>石森大知 2019「民族性から土着性へ—ソロモン諸島紛争におけるイサタンブ解放運動の一側面」『国際文化学研究』53:1-27。</p> <p>石森大知 2019「「新しいロトゥ」としてのバハーイー教—ソロモン諸島西アレアレにおける改宗過程と祈りの形式」『南方文化』45:1-18。</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	最近、関心をもっているテーマは「キリスト教の人類学」です。なかでも、植民地時代にもたらされたキリスト教的な組織や制度などの外面的な装置・配置が、今を生きるソロモン諸島の人々の生活様式や行動規範にどのような影響を与えているのか調査・研究を進めたいと考えています。
こんな授業を行なっています	私は太平洋の島々の研究をしていますが、授業において「太平洋限定」というわけではもちろんありません。異文化、あるいは自己と他者の文化的な差異などに興味をもち、文化人類学のものの見方やフィールドワークに基づく質的調査に関心がある院生を広く指導したいと思っています。授業では基礎知識を補強するとともに、発展、応用可能となるように問題を問いかけます。そして個々の関心を深め、多角的な視野から研究テーマを発展させ、共感性を高められるよう指導します。
学会や社会でこんな活動をしています	<p>【受賞歴】第7回国際宗教研究所賞、第11回日本オセアニア学会賞を受賞。また、武蔵大学で「学生が選ぶベストティーチャー賞」(2017年)の受賞経験があります。</p> <p>【委員歴等】2014年～2016年まで、文部科学省研究振興局・学術調査官をつとめ、研究者の立場から、学術研究および科学研究費補助事業の振興のための調査、指導や助言を行いました。</p>
研究分野の基礎文献を紹介します	<p>松村圭一郎・中川理・石井美保(編) 2019『文化人類学の思考法』世界思想社。</p> <p>インゴルド、ティム 2020『人類学とは何か』奥野 克巳・宮崎幸子訳、亜紀書房。</p> <p>Tomlinson, Matt and Matthew Engelke 2006 (eds) <i>The Limits of Meaning: Case Studies in the Anthropology of Christianity</i>, Berghahn Books.</p> <p>Tomlinson, Matt and Debera McDougall (eds) 2012 <i>Christian Politics in Oceania</i>, Berghahn Books.</p>